

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	福山市立培遠中学校	校長	村上 啓二	担当者名	酒井 盛浩
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『 アンケート等にもとづいた個々の生徒に寄り添う指導 』

生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	---	------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

- ①日々の生活を振り返り，目標や進路に向かう態度を持つ。〈課題発見・解決力〉
- ②自分の考えや思いを，的確な表現で伝えることができる。〈コミュニケーション能力〉

取組のねらい

アンケート等により，個と集団の状況を把握，分析し，それをもとに個人面談を行うことで，生徒一人一人について，学校，家庭で抱えている思いや課題を明らかにする。個々に寄り添った相談等で夢や目標への見通しを持たせ，前向きに学校生活を送ることができるよう支援する。

取組の具体的内容

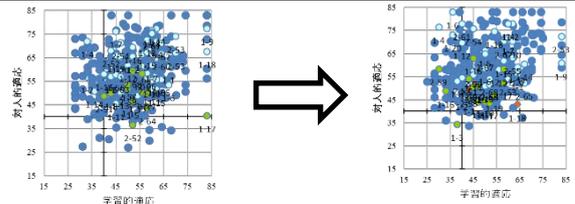
取組の創意工夫

- 1 様々な視点からのアンケート実施
 - (1) 生活アンケート
感染症に係る休業明けや学期末に，家庭での生活状況や登校不安等についてのアンケートを実施。
 - (2) 学校環境適応感尺度「アセス」
生徒の学校生活適応感をもとに，人間関係や学習適応の状況を把握，分析する。
 - (3) いじめアンケート
定期的に実施にし，生徒の状況を把握する。
- 2 アンケートを効果的に活用するための研修
 - (1) 「生徒の置かれている環境について」
スクールカウンセラーを講師として，発達障害等の生徒個々の特性について研修を行う。
 - (2) 学校環境適応感尺度「アセス」の見方
「アセス」の読み取りと分析の方法を研修し，個々の生徒の状況分析及び今後の取組の方向性の検討を行う。
- 3 生徒面談の実施
生徒の希望をもとに面談する教職員を調整して，面談を実施した。

- 1
 - (1) 新年度開始後，約1カ月の休業期間があったため，インターネットを活用し，家庭や学校での生活不安等に焦点を置いたアンケートを実施した。
 - (2) 学校生活への適応感が低い生徒等を情報共有し，支援内容や方法を検討した。
- 2
 - (2) 実際の生徒一人一人について，アセスの結果について具体的な分析を行い，その内容を元に，どのような支援が効果的か等について考えた。
- 3 学年始めに休業となったため，担任との人間関係が十分に構築されていない場合も鑑み，可能な限り生徒が希望する教職員と面談できるようにした。

取組の成果と課題

○ 教職員は，個の状況を的確に見取り支援を進めることの重要性を感じ，一人一人の生徒に，よりきめ細やかな対応を進めた。結果として，「アセス」では，対人的適応尺度の指数が全体的に上がる結果となった（右図）。



● コロナ禍で個の生徒に対する取組が進む半面，集団育成への取組が十分に進められなかった。個と集団への取組を，より効果的に進められるよう整理し，生徒が成長できるように取組を続けていく。